

NICUお別れの会ご報告

令和3年6月13日（日）に、立石の旧病院NICUにて開催いたしました、「NICUお別れ会」のご報告をいたします！

熊坂医師
より★

保育器を展示いたしました。

「こういうところ（保育器）に入っていたんだよ」と、覗き込みながらお話するご家族。当時は「大きくなるのだろうか？」と不安でいっぱいでしたね。



もう保育器やコットには入れない大きさに立派に成長した子どもたち。ご両親から自分の生まれた時の話を興味津々にきいてました。このお部屋のこと、なんとなく覚えていたりする子もいるのかな？

様々な体重のお人形を展示しまし

た。大きくなって自分の出生体重に近いお人形を抱っこし、どんなことを感じられたのでしょうか。



あの時の
抱っこの重さ
思い出す...

赤ちゃん...❤️



僕の方が
重いかな？

こんなに
小さかった
んだ！



スタッフと子どもたちの久しぶりの対面。NICUから卒業して、顔つきなどすごくお姉さんになっていてびっくりしました。

人見知りで泣かれることもしばしばあります。さみしさもあるけどそれも発達している証拠！



大きくなりましたね～！



フロアの中には、NICUにいた時の写真や、退院後NICUに遊びに来てくれた時の写真を展示しました。その写真の中に「あっ私だ！」と11年前の自分を発見！11年の時を経て、この場所に戻り元気な姿を見せてくれてうれしかったです。

「夢は医者になること」と、以前スマイルの会で語ってくれましたね。“将来一緒に働こうね！”と一緒に写っている私（熊坂）と約束しました。年を重ねてきましたが、まだまだ現役で頑張ります！



当時の育児日記を持ってきてくださいました。この育児日記は、ご家族とスタッフで赤ちゃんの成長を記したものです。私たちスタッフとご家族をつなぐ交換日記としても使用していました。

お姉ちゃんも一緒に参加してくれたご家族。NICUにいた頃の妹ちゃんを発見。あそこにいるよって抱っこしてみせてくれていました。



運営スタッフ以外のスタッフも参加しました。こんな写真撮ったなあと懐かしんでいます。



ご参加の皆さんには、記念品のタオルをお渡ししました。デザインはスタッフによるもの。三石院長と私（熊坂）、とてもそっくりです。

赤ちゃんの絵は、コウノトリのようにそれぞれの家庭に幸せを運んでくれた姿をイメージしてつくったそうです。



手形アートブース

参加者・スタッフの手形足形や写真などで、大きな木の絵を作成しました。幹の茶色はスタッフの手形で作り、お預かりしている子を幹となつて支える様子を表しました。葉っぱや空はNICUから育っていった子どもたちの手形足形で作り、それぞれいろんな色に花開いて成長していった様子を表しました。そしてたくさんのメッセージも書いていただきました。



ご家族にも手形アートに参加していただきました。ママのこの手で、育ててきた証。



成長した子どもたちのアートをみて、思わず感動の涙を流すスタッフ。私たちにとって、子どもたちがご家族のもとでぐくぐと育っていることが、なによりの喜びです。

最後に、三石院長と私（熊坂）も手形を押しました。日々支え合っているスタッフに想い想いの色を手塗っていただきました。十人十色のお子さまが成長してきたNICUにぴったりの手形になりました。



素敵な作品が出来上がりました！

私たちが企画しました。

今回の「お別れの会」を通じて、NICUはそれぞれのご家族にとって、“はじまり”の大切な場所であることを改めて認識する機会となりました。

新病院でもご家族の想いを大切に、赤ちゃんの人生の“はじまり”と一緒にサポートしていけますよう、スタッフ一同努めてまいります。葛飾赤十字産院が、このようにたくさんの方に愛されている病院であったことを心に刻み、皆様との思い出を紡ぎ、東京かつしか赤十字母子医療センターとして未来へとつなげていきます。



おわりに（院長挨拶）

NICUにいるときには壊れそうな小さな宝物だった赤ちゃんたちが、大きくなってご家族と一緒に次々とNICUお別れの会に訪れる光景は感動でした。NICUスタッフの心血を注いできた新生児医療に、NICU卒業生の皆さんから大きな花丸を頂いたように感じました。

新しい病院でもより大きな花丸を貰えるように、NICUスタッフの頑張りを院長の私はサポートしていきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



院長 三石 知左子

